

やすらぎ いきいき 輝く街 ふっさ

◆発行・編集
福生市教育委員会
事務局庶務課
〒197-0005
福生市北田園2-9-1
(中央体育館内)
電話 552-7711
FAX552-2622

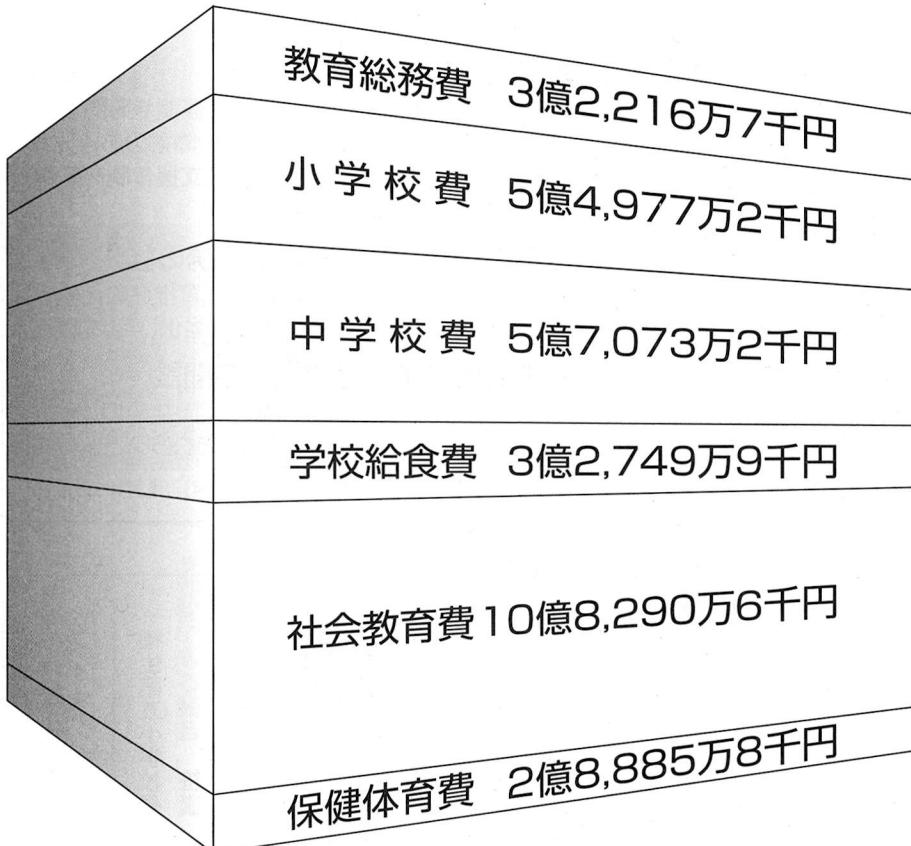
福生の教育

**平成17年度福生市の教育予算
31億4,193万4千円**

一般会計予算の15.3%

**教育費予算額
31億4,193万4千円**

**福生市
一般会計予算額
205億1,800万円**



公債費 12億2,547万8千円
消防費 9億2,403万7千円
その他 (議会費・労働費・商工費・農林水産業費・諸支出金) 4億9,529万3千円

民生費	75億1,129万2千円
教育費	31億4,193万4千円
衛生費	26億1,389万1千円
総務費	23億5,087万9千円
土木費	22億5,519万6千円

育英補助金	318万5千円	生徒各助費(学用品・通学用品・学校給食・新入学学用品・卒業アルバム)
入学資金利子補給金及び保証料	73万7千円	第三中学校防音機能復旧(復機事業)
会社保証料	191万8千円	中学校施設整備費
教育広報の発行	1,530万8千円	1、841万4千円
教育相談事業	3,733万5千円	第一・二中学校昼食対策費
日本語適応指導講師謝礼	3,733万5千円	3、531万6千円
小学校授業指導補助員謝礼	5,900万6千円	第三中学校ランチルーム等整備事業
英語指導員(外国人)事業	1,190万7千円	1、255万1千円
心身障害教育費	4,244万4千円	2億4,994万円
適応指導教室事業	6,56万円	166万8千円
小学校電算機借上	1,984万9千円	5,44万4千円
小学校施設維持管理費	1億2,501万3千円	8,89万8千円
児童各扶助費(学用品・通学用品・学校給食・新入学用品・卒業アルバム)	4,929万5千円	国際交流青少年海外派遣事業
機械設計委託事業	4,27万6千円	市民会館等リニューアル事業
第七小学校便所改良事業	8,589万5千円	3億9,674万円
第四小学校防音機能復旧(復機)	2,991万6千円	5,095万円
小学校施設整備費	1,708万円	市営プール運営費
中学校電算機借上	7,808万1千円	1,255万1千円
中学校施設維持管理費	2,991万6千円	5,356万8千円
図書館施設管理費(四館)	2,345万6千円	中央体育館耐震補強設計委託
図書館施設管理費	2,157万円	5,820万8千円
体育館施設管理費(三館)	6,446万5千円	5,49万円
屋外体育施設管理費	6,446万5千円	2,356万8千円
図書館図書購入(備品購入)	2,157万円	2,356万8千円

平成17年度福生市一般会計予算が、3月の定例市議会で可決成立しました。 一般会計のうち、教育費に関する主な事業を紹介いたします。

特別支援教育の充実を目指します

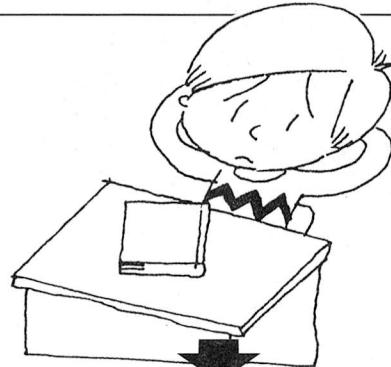
福生市教育委員会では、支援を必要とする福生市すべての子ども達に対する教育的支援を特別支援教育ととらえ、事務局内に特別支援教育検討委員会を設け、援助の充実に努めています。

特別な支援を必要とする子ども達一人ひとりに対応した教育を提供したいと考えています

学習の遅れは心配ですが、学校に行けずに悩んでいます

新しいクラスになじめずに悩んでいます

落ち着いて授業を受けられず悩んでいます



適応指導の充実を図ります

教育相談活動の充実を図ります

特別支援教育の充実を図ります

適応指導教室の開設

- 不登校児童・生徒に対して、外出の機会や学習・生活の場、人とのふれあいの場を提供します。

心理相談員の巡回訪問

- 本市の心理相談員が小学校各校を巡回し、児童や保護者、教員に対して心理的な相談に応じ、不登校の状況改善を図ります。

不登校問題聞き取り調査

- 不登校児童・生徒調査結果を基に、聞き取り調査を行い、個に応じた適切な指導への支援をします。

不登校対策推進地域指定

- 東京都の指定を受け、関係諸機関とネットワークを組み、不登校の解消を図ります。

中学校教育相談員の派遣

- 教育経験豊かな先生から、教育上の悩みの相談をお受けしています。

専門医の学校巡回

- 複雑化する心理的な相談に対し、専門的な立場から指導・助言をいただきます。

心理相談員の巡回訪問

- 本市の心理相談員が小学校各校を巡回し、児童や保護者、教員に対して心理的な相談に応じ、課題の解決を支援します。

教育相談主任制度の確立

- 特別支援を必要とする児童・生徒を把握し、適切な支援のためのコーディネーターを教育相談主任とするよう、都に働きかけています。

スクールカウンセラーの派遣

- 中学校各校に臨床心理士を派遣しています。

中学校適応指導補助員の派遣

- 学校不適応等、学校生活上課題のある生徒について支援します。

通級指導学級の開設

- 軽度発達障害児への適切な対応を図るため、小・中学校に各1校ずつ通級指導学級を開設すべく、都に申請しています。

就学支援推進事業

- 教育、保健、医療、福祉等の関係機関や専門家がネットワークを構築し、LD等を含め障害のある児童・生徒の乳幼児期から学齢期への支援体制を整備していきます。(LDとは学習障害)

近隣の都立養護学校との連携の強化

- 特別支援教育の充実にあたり、教育推進のための拠点校となる養護学校との連携を強化していきます。

特別支援教育推進委員会の開設

- 各校における特別支援教育充実のために、特別支援教育コーディネーターの養成をねらいとした委員会を設置します。

●は平成17年度に計画している事業です

最初に、6年間経験した心身障害児学級の子ども達や保護者の方々との出会いである。

事に出会い、多くのことを学んだ。その中から今、ここで二つのことを記したい。

も達の姿に感動を覚える。教師として、このような日々を重ね、三十数年になる。その内もう福生の子ども達と過ごした時間が半分以上になった。福生が大好きであると同時に大変感謝している。

「おはようございます。」と、元気な声が届く。今朝は音楽集会のある日だ。一と、元気な声が届く。今朝は音楽集会のある日だ。一

始業前、昇降口から校庭で遊ぶ子ども達を見る。

「おはようございます。」

福生第五小学校長 笹嶺千秋

隆寺行きを思い出す。学校の主人公は、子ども達であり、十人十色の個性、よさを見取り伸ばすことが大切である。

一さんという方の話を直に聞きたいと思っての急な法二つ目の出来事は西岡常

もまた自己実現に向けて終わりのない変容をする存在を考えるようになったのは、この学級の子ども達や親御さんとの出会いからだった。

子どもはまさにそのよう

くなろうとしている。大人と一緒になって変容し続けるのだと思う。

さて今、福生市では、学

校になり、「自分や他の人の大切さを認めること」の

理念のもと教職員・保護者・地域の方々と共に進めて

言葉のない子から、言葉を越えた確かに人と人とのコミュニケーションの存在と大きさを教えられた。また、「人は変わらないさ」という方もいるが、そんなことはない。人は必ず変容するということも信じさせていただいた。どうしても見えていた姿や行動で、人を見抜いて活かして仕上げていく」と説く西岡さん。しかし内面や、その人の生きている世界を見ると、人のもつているよさも含めいろいろなことが伝わってくる。その、人としてのよさは心掛け次第で、また周りの人との関係次第で変化をし、より良く伸びたい、生きたいというエネルギーと一緒になって変容し続けるのだと思う。

世界で一番古い木造建築である法隆寺の宮大工西岡

一さんの著書にあった「堂塔の木組みは寸法で組まねての行動だった。」

言葉に、教育の真髄を重ねての行動だった。



日々 变容

教育隨想

